

第80号 冬号 発行月：令和6年1月



和っはっは

もくじ

1. 施設長の新年のごあいさつ
2. about me 7のご報告
3. 冬祭りのご報告





新年のごあいさつ



施設長 塩川智司

年が明け令和6年を迎えました。『和っはっはっ』から新年のご挨拶申し上げます。

元旦早々に、能登半島地震が起こりました。被災された皆さまにお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方のご冥福をこころよりお祈りいたします。

昨年には、新型コロナウイルス感染症が5類へと類型変更になり、コロナ禍も鎮静化して初めての元旦、久しぶりの帰省など、はなやいだお正月のはずが一転してしまいました。昨年も、地震、台風、豪雨が列島を襲い、わが国が災害列島であることを改めて思い知らされました。全世界のたった0.29%の面積を占めるだけのこの日本で、マグニチュード6以上の大地震の全世界の18.5%が日本で起こり、日本の被害金額は全世界の17.5%にのぼり、日本は世界で最も災害の多い国の一つです。日本に住む限り、災害は必ずやってきます。南海トラフ地震も近い将来必ず起こります。大災害の際に助かるための手立ては、行政による取り組みすなわち“公助”はわずか1割、地域住民・コミュニティなどの協働による“共助”が2割、“自助”7割といわれています。災害が大きいほど、とくに災害直後は公助、共助は期待できません。すなわち自ら助かるための準備を、普段からしておかなければなりません。大阪では大きな災害が少なく、大阪人は災害を他人事とってしまいがちですが、かつて大阪では大地震の後大津波に見舞われ多くの犠牲者がでました。四天王寺境内には、当時の町人たちがこの時の災害を記憶に刻み後世に伝えるべく建てた碑があります。1854年の安政地震津波の碑がそれです。「喉元過ぎれば熱さを忘れる。」また、「嵐の日の約束は、晴天には忘れる。」との言葉があります。大阪人は、とくにその傾向が強いのではと思われます。



安政地震津波の碑（市顕彰史跡第188号）

安政元年(1854年)11月4日・5日の両日に相次いで発生した安政東海地震と同南海地震による犠牲者を供養し、津波災害の状況を後世に伝えて警告するため、町人一同によってその翌年秋、四天王寺境内（中之門近く）に石碑が建立され、今もわれわれに語り続けています。

（黄色丸：碑文、写真右拡大）

コロナ禍で自然災害に対する危機感がやや薄れしまっている今、改めて来るべき災害に備えて準備を確認してゆきたいと思います。準備のためには、何よりもわれわれの連携が大切です。連携とは目的を共有すること、互いに連絡を取り合っていること、協同体制が取れていること、前提として、役割分担が明確であることの3要素が揃っていることで、そしてもっとも基盤にあるのは、仲間同士がお互いをレスペクトし合っていること、“和”のところが大切と考えます。今年は何により、災害対策をとおしていかにご利用者を守るか、お互いに連携をむねに、いかなる時も、子どもたちの笑顔を目指したいと思います。

about me 7のご報告

展覧会「about me 7 ～“わたし”を知って～非言語のモノログ」

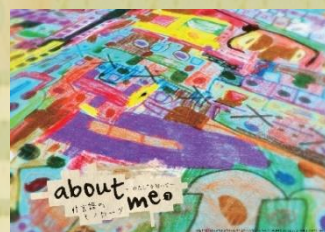
日 時：2023年12月8日（金）～12日（火）

10：30～20：30※最終日のみ16：00まで

会 場：LUCUA 1100 4F「sPACE」

（大阪市北区梅田3-1-3/JR大阪駅中央口徒歩1分）

入場料：無料



「四天王寺和らぎ苑」の表現者たちの作品が出展されました。

障がいの有無に関わらず、すべての人に表現活動が必要だと考えています。文字も絵画もすべては1本の線から始まります。線を引かせてあげることができれば、見える形で紙に留めることができれば、その人の思いや考えに近づくことができるのではないかと。その様に考え、これまで18年間重症心身障がい児・者の方々への表現活動を実践してきました。アート作品を産み出すと言うよりもあらゆる手段を使って、生きている痕跡を残していると言った方が近いかもしれません。描かれたものの前に立ち鑑賞することで、彼らの生きようとする力を全身で感じることができます。

一見、線や点があるだけの様に見えるかもしれませんが。しかし生み出されたものは彼らが全力で表現したものになります。彼らが表現したものは障がいのない方々が表現したものに比べて劣っていると言えるでしょうか。彼らの表現したものに障がいのない方々が表現したものと同一価値や意味を見出すことができれば、彼らを取り巻く世界は大きく変わっていくはずで。彼らの表現活動を身体・環境・活動などの面からサポートすることがリハビリテーションに携わる私達の使命だと思っています。これからも想像もしないような作品に出会えることを楽しみに表現活動を続けていけたらと思います。

作業療法士 木村 基





冬祭りのご報告

令和5年度冬まつりが、12月2日(土)に開催されました。12月と言えば、クリスマス。少し早いのですが、クリスマスモードに突入です。フロアには、クリスマスツリーにクリスマスの飾りつけ。行事食も、クリスマスらしい食事を提供していただき、おいしくいただきました。行事食の内容については、当施設のホームページのブログを参照してください。必見です。極めつけは、サプライズで、サンタクロースがトナカイと一緒にプレゼントを持って来苑してくださいました。イベントは、ダンスパーティを行いました。ご利用者の皆さんは、音楽に合わせて体を動かしたり、楽器を持って曲に合わせて鳴らしたりと、参加した職員と一緒に、楽しい時間を過ごしました。



発行者：四天王寺和らぎ苑広報委員会

ホームページ

〒584-0082 富田林市向陽台 1-3-21

Tel : 0721-29-0836(代) Fax : 0721-29-3916